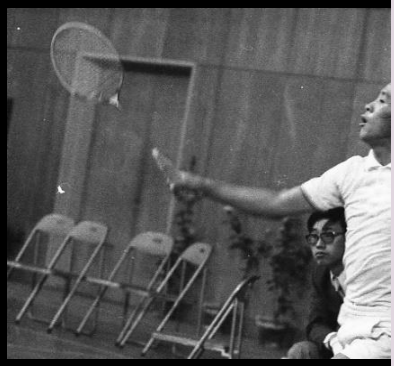
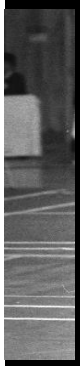
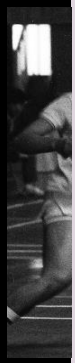
石岡市立ふるさと歴史館第19回企画展

昭和49年茨城国体の足跡

―スポーツの普及と充実―







令和元年8月6日（火）～11月4日（月・祝） 午前10時～午後4時30分
月曜休館（祝日の場合は翌日）入館無料

展示解説 9月21日（土）午前10時30分から申込不要，直接お集まりください

石岡市立ふるさと歴史館
石岡市総社1－2－10　石岡小学校地内　Tel:0299-23-2398

石岡市立ふるさと歴史館第 19 回企画展

昭和 49 年茨城国体の足跡

―スポーツの普及と充実―

◆目次

はじめに　1
昭和 49 年茨城国体　2
昭和 49 年茨城国体と令和元年茨城国体　4
昭和 49 年茨城国体の結果　5
石岡市と国体　6
石岡地区とバドミントン　10
石岡市と「花いっぱい運動」　12
石岡地区と市内パレード　14
茨城県のスポーツ振興　16
石岡市のスポーツ振興　17
令和元年茨城国体　18
おわりに　19

◆例言

本冊子は，令和元年（2019）8 月 6 日～11 月 4 日を会期として開催する石岡市立ふるさと歴史館第 19 回企画展に際して作成したものです。

展示及び本冊子の編集・執筆は，石岡市教育委員会　文化振興課（中村菜摘）が行いました。

展示にあたっては第 29 回国民体育大会石岡実行委員会発行の報告書をはじめ，1 ページに記した文献を参考といたしました。

◆謝辞

展示にあたっては，いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会実行委員会事務局，石岡市教育委員会スポーツ振興課，石岡市秘書広聴課，太田晃氏，恒弘　登志子氏にご協力いただきました。深く感謝申し上げます。

昭和 49 年茨城国体の足跡

―スポーツの普及と充実―

はじめに

昭和 49 年 10 月 20 日に，茨城県では初めての国民体育大会（以下国体）となる「第 29 回国体（水と緑のまごころ国体）」が開催されました。

国体とは，都道府県持ち回りで毎年開催されている国内最大のスポーツ大会です。都道府県対抗方式で行われ，男女総合である「天皇杯」と，女子総合である「皇后杯」で優勝を目指します。

国体の開催は全国を一巡し，昭和 63 年京都国体から二巡目が開催され，「東（北海道・東北・関東）」，「中（北信越・東海・近畿）」，「西（中国・四国・九州）」の 3 地区で順番に行っています。

国体の目的は，国民の間にスポーツを広め，国民の健康増進と体力の向上を図り，地方スポーツの振興と地方文化の発展を図ることです。昭和 49 年茨城国体も，茨城県のスポーツ振興に大きく関わりました。

今回は 45 年ぶりに茨城で国体が開催されることを記念し，前回の茨城国体を振り返ります。国体と地域のスポーツ充実の関係に焦点を当て石岡市のスポーツ振興にどのように関係したのかを紹介します。

展示にあたっては，以下の文献を引用しています。

●阿部　勘一 「国民体育大会におけるレガシーと「地方」」『成城大学経済研究』第 202 号，2013

●石岡市教育委員会 『体力づくり』 1977

●石岡市教育委員会体育保健課 『社会体育の運営及び活動方（案）』 1975

●いばらき教育 50 年の歩み編纂委員会 『いばらき教育 50 年の歩み―茨城県教育委員会制度 50 周記念―』 茨城新聞社　1998

●権　学俊 『国民体育大会の研究―ナショナリズムとスポーツイベント―』 青木書店　2006

●関本　ゆう・木村　和彦 「デモンストレーションとしてのスポーツ行事に見る国体のスポーツレガシー」『スポーツ産業学研究』20 巻 1 号，日本スポーツ産業学会　2010

●第 29 回国民体育大会石岡実行委員会 『報告書』 1975

昭和 49 年茨城国体

昭和 49 年茨城国体の概要

昭和 49 年茨城国体は，県民の力を集めて茨城にふさわしいスポーツの祭典を実現すると共に，スポーツの振興によって県民の体力増進と明るく豊かな県民生活の基盤づくりを目指しました。テーマは「水と緑のまごころ国体」です。シンボルマークの「青」は豊かな自然，「黄」は豊かな実り，「赤」はまごころを示し，茨城の「い」を形作っています。

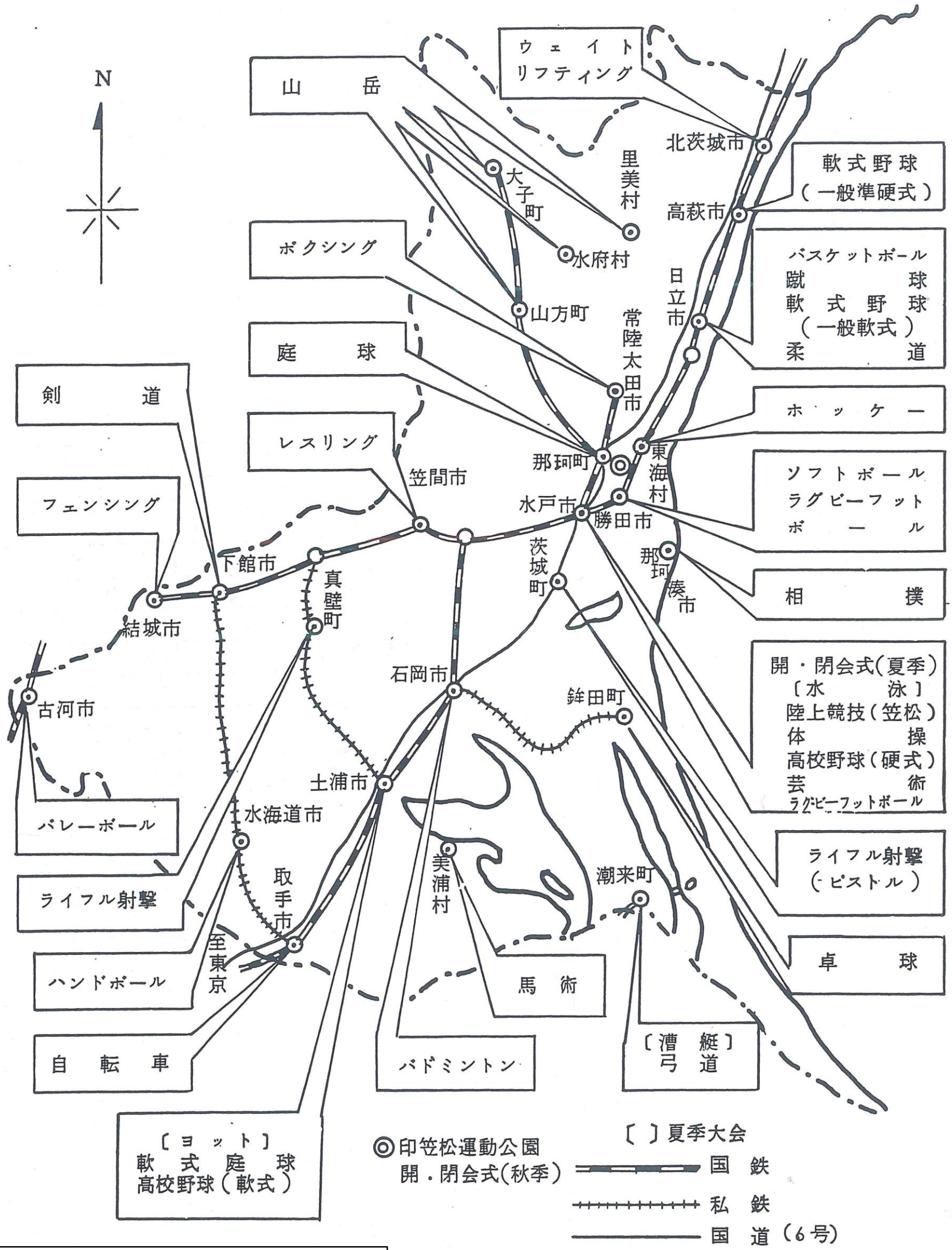
夏季大会は 9 月 8 日から 9 月 11 日の 4 日間，秋季大会は 10 月 20 日から 25 日までの 6 日間開催されました。

27 市町村で 30 競技（夏季・秋季・公開競技を含む）が行われ，夏季・秋季大会の選手・監督・都道府県本部役員 20,191 人と競技役員・補助員 4,016 人が参加しました。また，昭和 42 年埼玉国体の開催経費は約 100 億円でしたが，昭和 49 年国体の開催経費は約 250 億円でした（権　学俊，2006）。文部省，日本体育協会からは「簡素に」と通達が出されましたが，いかに茨城県が国体に力を入れていたことがわかります。

昭和 49 年茨城国体
水と緑のまごころ国体
シンボルマーク

第29回国民体育大会

夏季・秋季大会競技会場等配置図



第 29 回国民体育大会　夏季・秋季大会競技会場配置図
報告書, 1975, p9

昭和 49 年茨城国体と令和元年茨城国体

現代にないもの・現代にあるもの

昭和 49 年国体と令和元年国体を比較すると，違いがあります。いくつか紹介します。

●教員の部の廃止

国体の教員の部が増加した理由は東京オリンピック誘致活動にあります。オリンピックで好成績をとる方法として中高生の選手育成が課題に挙げられました。中高生の選手育成には，学校の教員による指導が最適という考えからです。技術があり指導力も優れている教員を養成するために，教員が参加できる種目が増加しました。

しかし，順位を決める上で影響のあった教員の部の存在によって，体育教師の採用が増える等不平等な教員採用が起こりました。また，開催地は開催が決定した段階から選手の強化等に力を入れているため，開催地が天皇杯・皇后杯を得る流れができました。その後，開催地が天皇杯・皇后杯を得るのは当然という雰囲気になり，開催地にプレッシャーを与えました。不平等な教員採用について学校教育へ悪い影響を与えている点から，昭和 55 年栃木国体より教員の部は廃止されました（権　学俊，2006）。

●デモンストレーションスポーツ（デモスポ）の実施

国体の開催に対して改革の中で，開催地の住民が参加できるスポーツとして，昭和 63 年京都国体からデモンストレーションスポーツが実施されました。

デモスポは，開催地都道府県民が国体へ参加する機会を作り，様々な年代の方々の健康増進，体力の向上などを目的として行われています。正式・公開競技以外の競技です。

デモスポ競技は，比較的競技性の低いスポーツが実施されます。競技性を重視しないことで，年代などに関係なく参加できるためです。デモスポ競技の実施により，開催後の活動基盤となる組織の設置や開催競技の認知度が上がることから，地域のスポーツ振興へ貢献しています（関本　ゆう・木村　和彦，2010）。

昭和 49 年茨城国体の結果

総合優勝を収めた茨城県

昭和 49 年茨城国体で茨城県は開催地のプレッシャーに耐えながら，無事，天皇杯（男女総合）1 位，皇后杯（女子総合）1 位という好成績を収めることができました。

競技別に見ると，水泳，陸上，蹴球（サッカー），バレーボール，体操，バスケットボール，レスリング，馬術，剣道，ラグビーフットボール，高校野球，フェンシング，ボクシングの 13 競技で 1 位を獲得しました。

昭和 49 年国体をきっかけに，茨城県では総合体育施設などの建設が行われました。主会場として建設された笠松運動公園は，当時まだ一般的ではなかった悪天候に対応できる陸上用のコースを備え，「国立競技場の次に立派な施設」と言われました。国体後も，県内最大の県民スポーツ・体力づくりの中心地として使用されています。

国体によって生じた遺産は，体育施設だけではありません。「地方」という資源が少ない中で，全国規模の大会を主催として行ったという成功体験こそが遺産という意見もあります（阿部　勘一，2013）。

笠松運動公園

第 29 回国民体育大会　施設概要，

第 29 回国民体育大会茨城県実行委員会

石岡市と国体

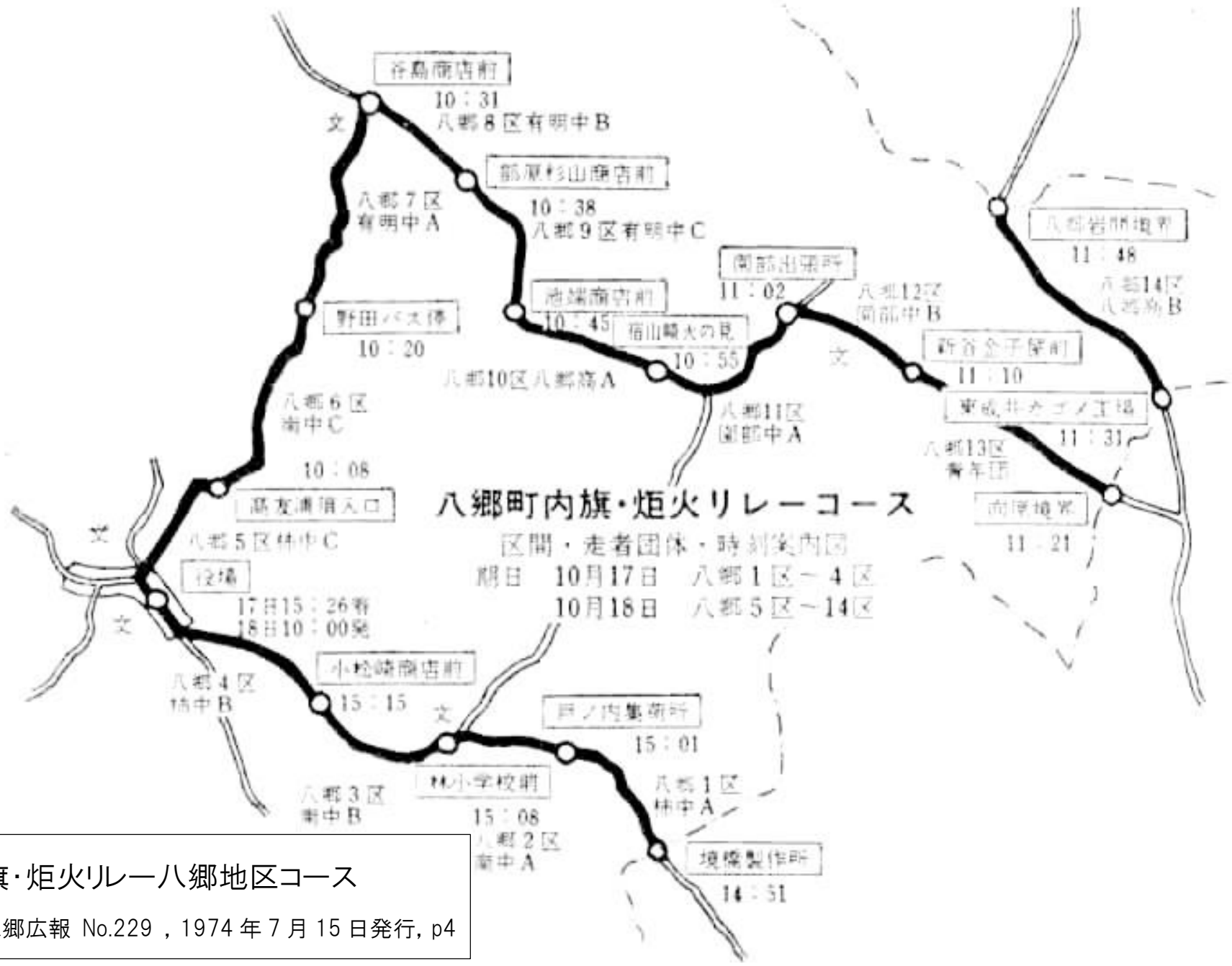
旗・炬火（きょか）リレー

令和元年茨城国体とは違い，昭和 49 年茨城国体では，大会旗・炬火リレーが行われました。

炬火とは，オリンピックの聖火にあたるものです。炬火は開催地で採火されます。また，旗・炬火リレーは競技の会場ではない市町村も通過するため，競技のない市町村民の国体に対する意識，関心を集める役目があります（権　学俊，2006）。

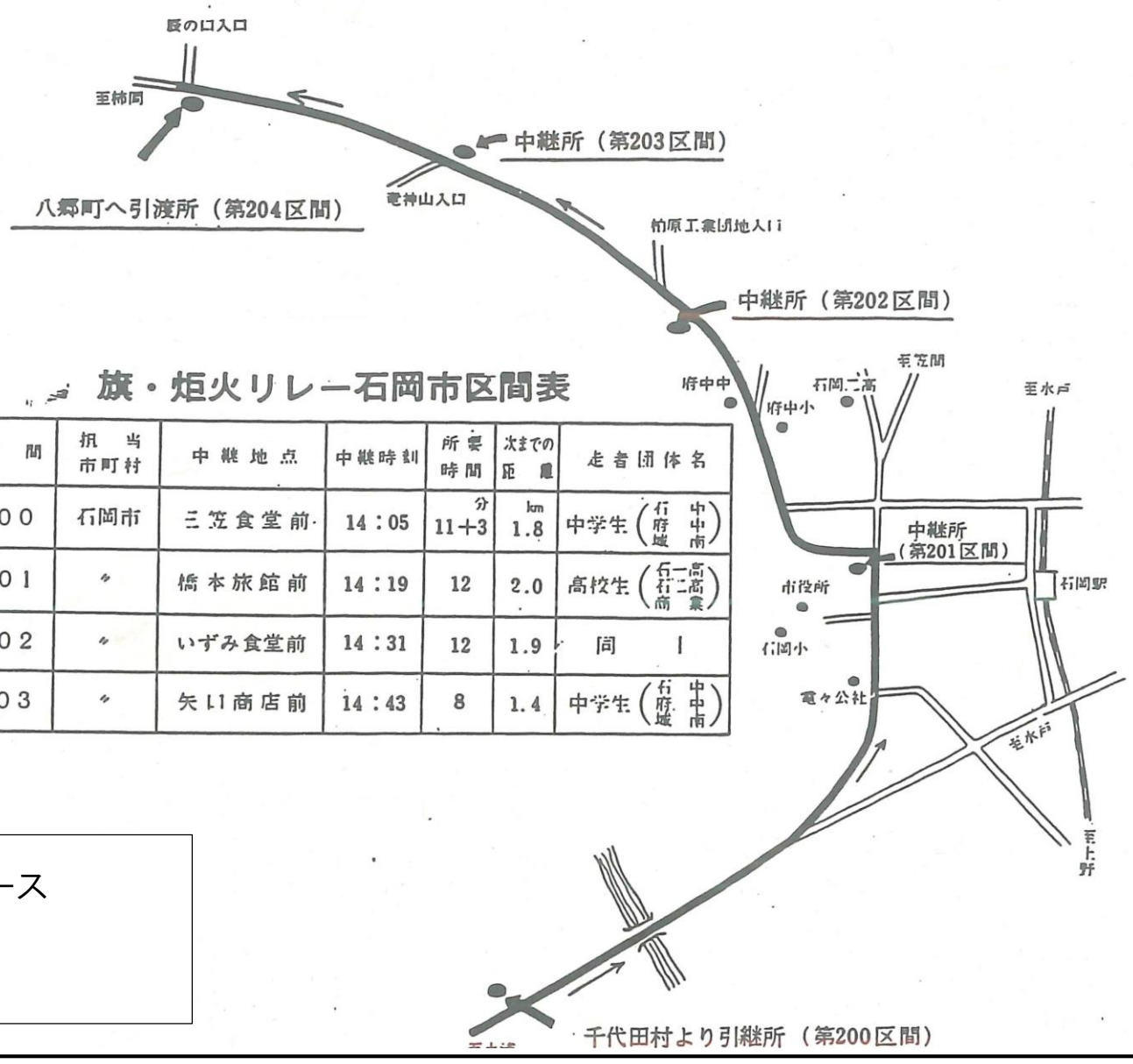
火は，原子力東海研究所の「科学の火」，筑波山の「自然の火」，鹿島神宮の「伝統の火」の 3 ヶ所で採火されました。県内 92 市町村を一週間にわたって約 1,257 ㎞をリレー。約 18,000 人の県民によって届けられた 3 つの火は県庁で集火され，「まごころの火」となり開会式で点火されました。

石岡市では「伝統の火」を引継ぎ，大勢の市民の声援をうけながら駆け抜けました。石岡地区では，石岡中，府中中，城南中，石岡一高，石岡二高，石岡商業の生徒が走者としてリレーが行われました。八郷地区では，柿岡中，八郷南中，有明中，園部中，八郷高校の生徒と青年団が走者としてリレーが行われました。競技に参加しない県民にとって，地域住民が参加する旗・炬火リレーは国体の見どころでした。



旗･炬火リレー八郷地区コース

八郷広報 No.229 , 1974 年 7 月 15 日発行, p4

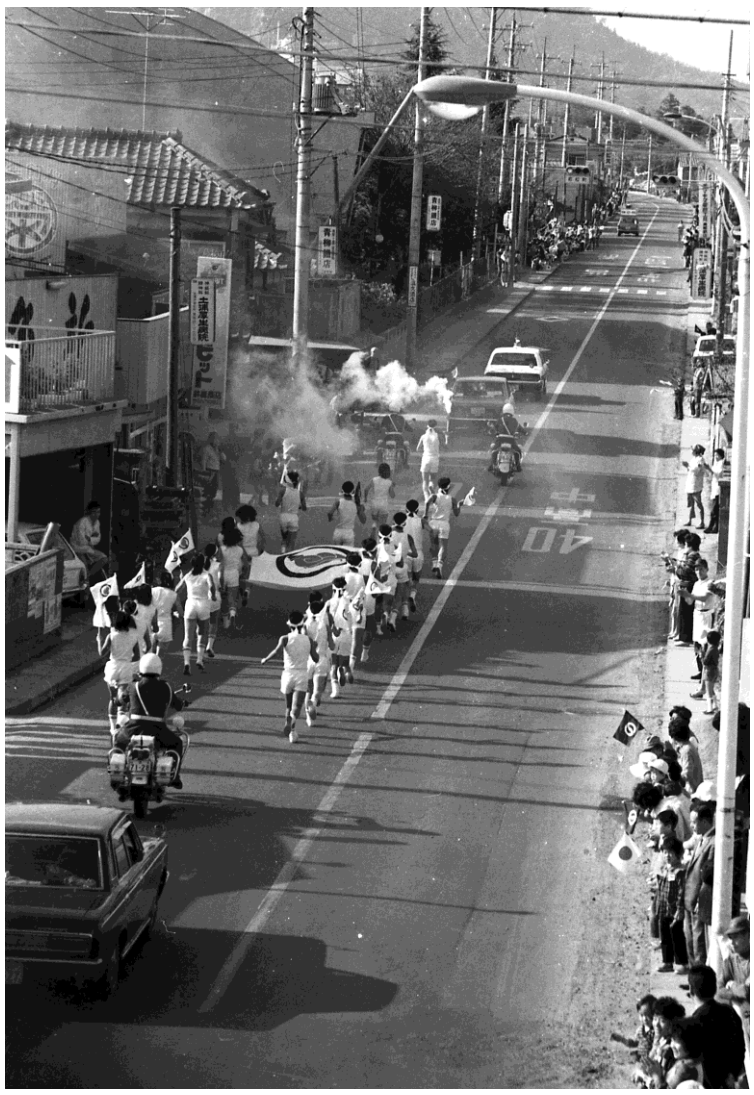


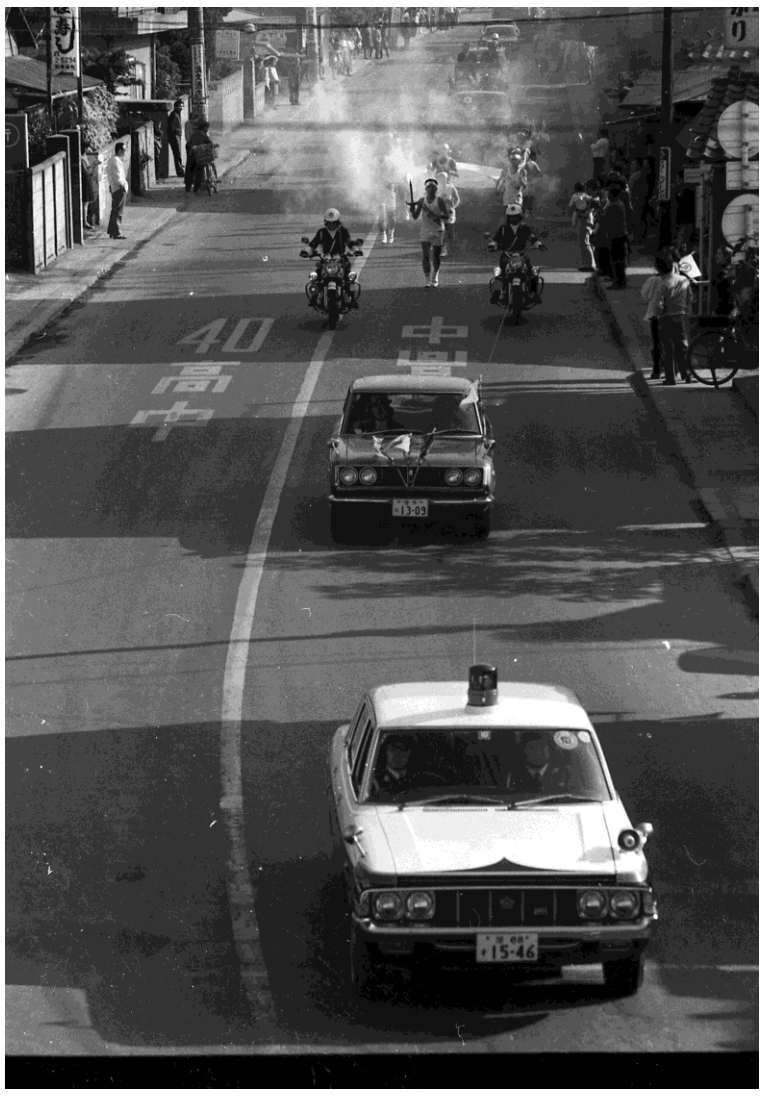
旗・炬火リレー石岡市区間表

区間	担当市町村	中継地点	中継時刻	所要時間	次までの距離	走者団体名
200	石岡市	三笠食堂前	14：05	分 11＋3	km 1.8	中学生（石府城 中中南）
201	〃	橋本旅館前	14：19	12	2.0	高校生（石一高 石二高 商業）
202	〃	いずみ食堂前	14：31	12	1.9	同上
203	〃	矢口商店前	14：43	8	1.4	中学生（石府城 中中南）

旗･炬火リレー石岡地区コース

報告書, 1975, p129





府中中学校前の道路を通る旗・炬火リレー

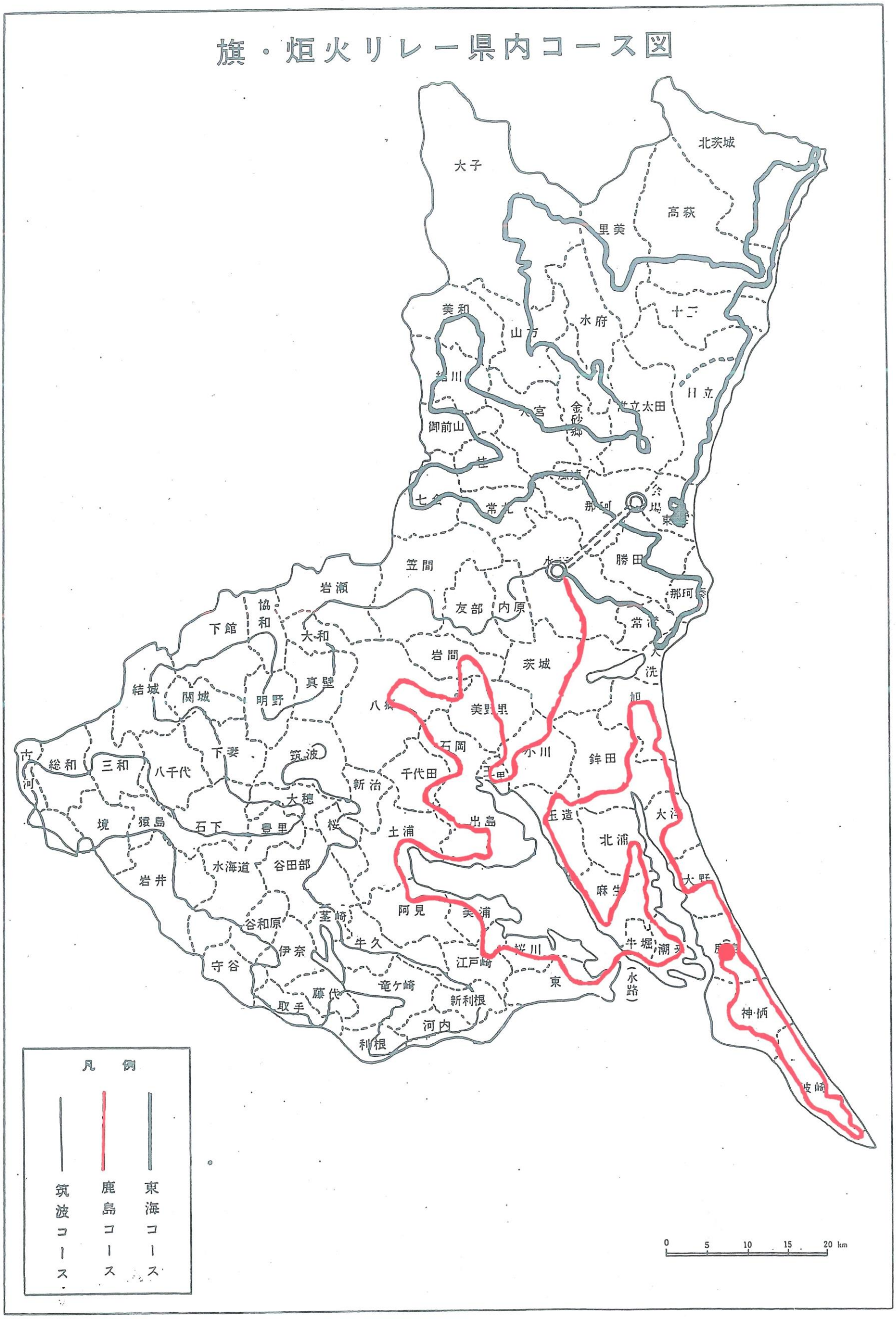
←橋本旅館前の中継所

（201 区間）

府中中学校から国道 355 号

までの道路沿い→

（202 区間）



旗・炬火リレー県内コース図
報告書, 1975, p131

石岡地区とバドミントン

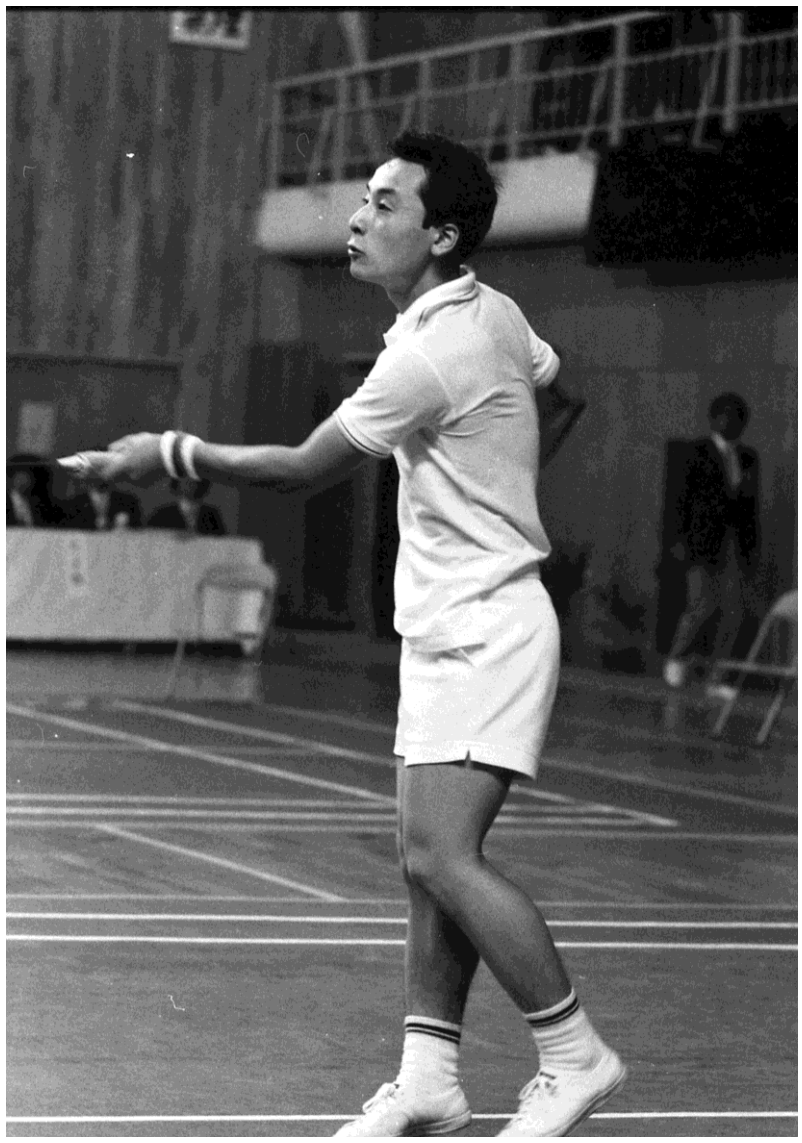
バドミントン競技の開催

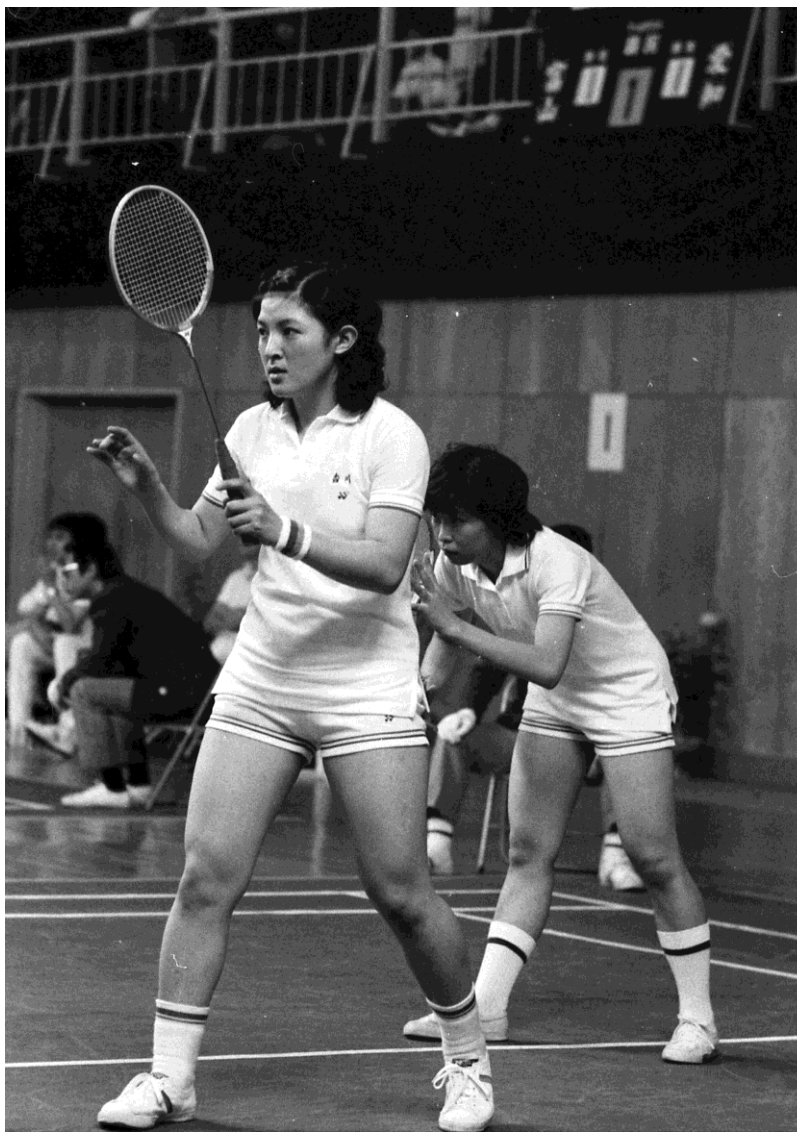
石岡地区が昭和 49 年茨城国体バドミントン競技の開催地になったことで，地元からのバドミントン選手・バドミントン審判員輩出を目指し，養成・強化が行われました。

特に高校生の強化が中心に行われました。国体開催が決定後，石岡市からの要請を受けて設置された石岡一高のバドミントン部は午後 10 時まで猛練習，また，月に 1 回は遠征・合宿を行いました。その結果，石岡一高の生徒を主体とした高校男子が 4 位，石岡二高の生徒が参加した高校女子は 5 位という好成績を収めました。一般女子も 5 位，教員男子も 3 位に入賞し，バドミントン総合 3 位の成績を収めました。

石岡地区では，市報に「国体だより」という欄をつくり，バドミントンを中心に毎月国体に関係する情報を紹介していました。また，バドミントン競技の世界女子ダブルスチャンピオン（竹中悦子氏，相沢マチ子氏），全日本学生チャンピオン（西尾真理子氏，秋本八代美氏），日中親善大会日本側代表（栂野尾昌一氏，木戸純一氏）などの選手を石岡地区に招きました。市民が世界に通じる技を直接目にできる機会を提供していたことなどからバドミントン競技の振興に力をいれていたことがわかります。

昭和 49 年国体
バドミントン競技大会の
様子





バドミントン競技大会出場選手

バドミントン競技大会会場の様子

石岡市と「花いっぱい運動」

昭和 49 年茨城国体の県民運動

昭和 49 年茨城国体は，県民すべてが参加する「みんなの国体」とし，国体県民運動を取り組みました。

「美しい環境づくり運動」，「事故をなくす運動」，「親切にしあう運動」，「郷土を知る運動」，「スポーツレクリエーションに親しむ運動」などが取り組まれ，その中から「美しい環境づくり運動」内の「花いっぱい運動」について紹介します。

石岡地区では，市民の積極的な「花いっぱい運動」を推進しました。美しい石岡をつくる市民の会は，青年会や婦人会，こども会など各団体の協力により，市内道路沿いに花壇を作りました。フラワーボックスは石岡地区内に 360 個，バラ鉢は 500 個置かれました。サルビアは 2 万本配布され，バドミントン会場となった石岡小学校は特に花々で彩られました。

八郷地区では，観光協会が柿岡の商店街にさつき，サルビア等の花々を植えたフラワーボックスを 30 個設置しています。また，林小学校の生徒と保護者で，県道沿いにカンナの球根など 10 種類の花を植えています。役場には菊 600 本が八郷町花き組合から贈られています。

フラワーボックスの設置は市民の評判も良く，花をいっぱいにし，美しい環境を整えることで，生活環境の改善にもつながっていったのではないでしょうか。

花いっぱい運動の様子

石岡地区と市内パレード

石岡地区の市民運動

石岡地区では，国体開催にあたり，すべての市民に国体をより詳しく知ってもらうとともに，市民運動に参加してもらうことを目的に「50 日前記念パレード」や「国体開催記念パレード」を実施しました。

「50 日前記念パレード」は国体開催 50 日前の 9 月 10 日に行われました。ボーイスカウト，市内小学校 3 校，中学校 4 校が鼓笛隊，ブラスバンドによるパレードを行い，約 500 名が参加しました。

「国体開催記念パレード」は国体の開会式の前日である 10 月 19 日に行われました。50 日前のパレードより参加者が増え，市内小学校 7 校，中学校 4 校，高等学校 1 校，民謡舞踊連合会，婦人会など様々な市内関係団体が参加し，約 850 名がパレードを盛り上げました。

50 日前記念パレードの様子

国体開催記念パレードの様子

常陽銀行前を通る様子（市内中学校の生徒）

石岡第一高等学校の生徒

茨城県のスポーツ振興

国体と茨城県

茨城県でスポーツ活動が盛り上がったのは，国体がきっかけです。昭和 40 年，昭和 45 年国体を茨城に誘致するための委員会が立ち上がりました（いばらき教育 50 年の歩み編纂委員会，1998）。同年，第 1 回県民総合体育大会を開催し，約 5,000 人の選手が参加しました。学校体育では，昭和 44 年からスポーツテスト 3 級合格者以上に「体力章（バッジ）」を授与しました。当初の対象は中・高校生でしたが，年には小学校高学年まで広げました。当時全国平均よりも低い種目が多かった茨城県の児童生徒の体力，運動能力を高めました（いばらき教育 50 年の歩み編纂委員会，1998）。

昭和 49 年茨城国体の開催地に決定し，国体開催によって，県民のスポーツへの関心が集まり，スポーツ教室やサークル，学校体育施設の開放が行われました。

国体後には，笠松運動公園などで，「スポーツ・フェスティバル」や「スポーツ天国」が開催され，多くの県民がスポーツを楽しみました。また，この当時，県内の高校では，古河一高サッカー部・取手二高野球部などが，中学校では谷田部中バレーボール部，下館北中卓球部などが全国大会で優勝していました。（いばらき教育 50 年の歩み編纂委員会，1998）

昭和 51 年には，茨城県のスポーツ担当社会教育主事を 10 人増やし，スポーツ振興に力を注いでいます。また，この年からスポーツ大会が増え，第 1 回県中学校選抜野球大会や第 1 回ママさん軟式庭球大会，昭和 58 年には第 1 回高齢者クロッケ・ゲートボールを開催しました（いばらき教育 50 年の歩み編纂委員会，1998）。特定の年代のみではなく，様々な年代でスポーツの普及・充実が行われていたことがわかります。

石岡市のスポーツ振興

国体と石岡市

石岡市でも，国体をきっかけにスポーツへの関心が高まりました。

石岡地区では昭和46年8月から石岡小体育館が開放され，柔道，剣道，バドミントン，バレーボール，卓球に利用されました。特にバドミントンでは，昭和48年4月1日から昭和49年3月31日までに4,447人の市民に利用されています。

昭和50年4月から府中小体育館，東小体育館，三村小体育館が追加で開放され，午後6時から9時までの夜間開放が始まりました。開放により，教育委員会では石岡市立小学校及び中学校の施設の開放に関する規則が定められ，一般市民も本格的に利用できるようになりました。東小は剣道，バレーボール，バドミントン，府中小と三村小では，バドミントン，バレーボールに利用され，昭和50年4月1日から昭和51年3月31日までの1年間で9,685人 の市民が体育館を利用しました（石岡市教育委員会，1977）。

同じ施設と種目で昭和51年4月1日から昭和52年3月31日の1年間では，18,570人の市民が利用しています。国体開催後1年経ち，市民のスポーツへの関心がさらに高まったことがわかります。

また，昭和46年5月から石岡地区，千代田村（現在のかすみがうら市），八郷地区を通る恋瀬川サイクリングコースが開通しました。全長17.2 kmあり，原則として4月から11月の間，自転車を無料で貸し出していました。昭和49年4月から，昭和50年3月までに貸出自転車は518人に利用されました。恋瀬川サイクリングコースは初心者向けのコースのため，15,699 人に利用されました（石岡市教育委員会体育保健課，1975）。春と秋にサイクリング大会を開催し，市民の健康と体力づくりに貢献しました。

令和元年茨城国体

令和元年茨城国体の概要

令和元年 9 月 28 日から 11 日間，第 74 回国体が開催され，その後 10 月 12 日から 3 日間，第 19 回全国障害者スポーツ大会が開催されます。

令和元年茨城国体の愛称は，「いきいき茨城ゆめ国体 2019」。選手やボランティアをはじめ，国体に参加する人々が，活気に満ちた，いきいきと活躍できる夢のあるスポーツの祭典を目指しています。そして，スローガンは「翔べ　羽ばたけ　そして未来へ」。国体に様々な形で参加することによって飛躍し，そして未来に向けて大きく羽ばたいていける大会であるように，という想いが込められています。

競技は，都道府県対抗方式で，得点（天皇杯・皇后杯）がある正式競技 37 競技（隔年開催はクレー射撃を実施），得点はない公開競技 5 競技と特別競技 1 競技が実施されます。

デモンストレーションスポーツは，県民が参加対象となります。得点はありません。31 種目が 23 市町村で行われます。

いきいき茨城ゆめ国体2019

第74回国民体育大会　翔べ　羽ばたけ　そして未来へ

令和元年茨城国体の愛称・スローガン

おわりに

令和元年茨城国体において，石岡市では昭和 49 年茨城国体と同じくバドミントン競技が行われます。また，デモンストレーションスポーツはトレイルラン・リレーカーニバル・パラグライダー/ハンググライダー・スポーツウエルネス吹矢・オリエンテーリングの 5 種目が実施されます。デモスポの競技数は，県内で最多です。

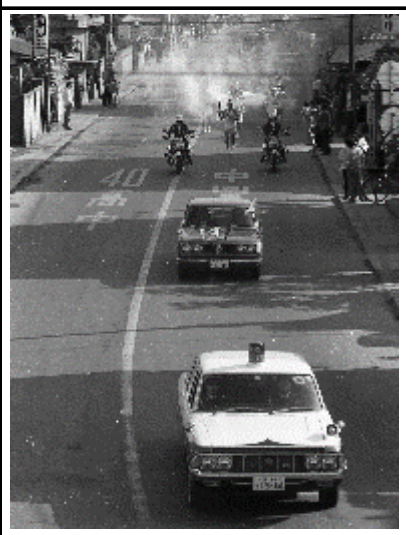
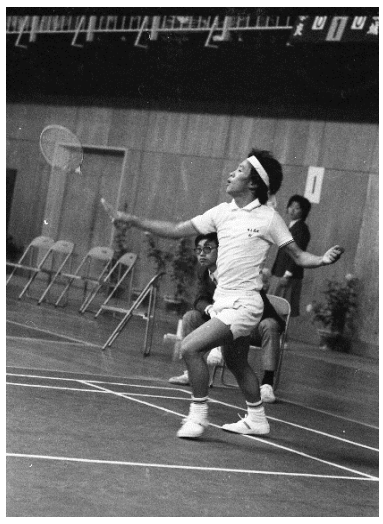
昭和 49 年国体では，県民の力を集めて茨城にふさわしいスポーツの祭典を行いました。また，全国規模の大会が初めて茨城で開催されることに県民は興味を持ったことと思います。そのため，昭和 49 年国体をきっかけにスポーツができる環境やスポーツを行う機会が増えたことにより，県民のスポーツへの認知度が上がり，体力づくりにも寄与しました。また，昭和 49 年国体をきっかけに行われたスポーツ施設や環境整備は現在も地域でスポーツを行う拠点として，地域住民の健康維持などに役立っています。

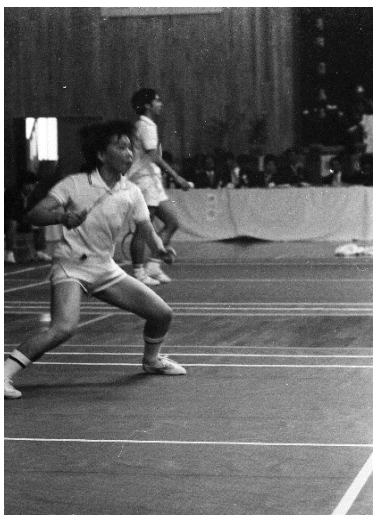
令和元年国体は，一部の地元選手だけではなく，デモスポを実施することで県民にも参加をしてもらう機会を設けています。スポーツを楽しみ，地域住民のコミュニケーションの場として利用してもらうことで，国体の役割が果たされることでしょう。

この展示が今後のスポーツについて考えるきっかけとなれば幸いです。

石岡市と
いばラッキー

展示品一覧

	展示品名	写真	提供･所有者
1	第29回国民体育大会 施設概要		石岡市教育委員会 スポーツ振興課
2	報告書（複製）		石岡市教育委員会 スポーツ振興課
3	「第29回国民体育大会　夏季･秋季大会競技会場配置図」『報告書（複製）』		石岡市教育委員会 スポーツ振興課
4	旗･炬火リレーの写真		太田 晃氏 ･石岡市教育委員会
5	「旗･炬火リレー県内コース図」『報告書（複製）』		石岡市教育委員会 スポーツ振興課
6	バドミントン競技大会の写真		太田　晃氏 ･石岡市教育委員会

			
7	花いっぱい運動の写真		石岡市教育委員会
8	市内パレードの写真		石岡市教育委員会

石岡市立ふるさと歴史館第 19 回企画展

昭和 49 年茨城国体の足跡

―スポーツの普及と充実―

令和元年 8 月 6 日発行

編集・発行
石岡市教育委員会　文化振興課
〒315-0195
茨城県石岡市柿岡 5680-1
TEL 0299-43-1111

石岡市立ふるさと歴史館
〒315-0016
茨城県石岡市総社 1-2-10
TEL 0299-23-2398